

新城市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

新城市議会3月定例会は2月23日に開

会し、穂積亮次市長が17年度の施政方針と予算大綱について説明した。

17年度予算案を「まち・ひと・しごと創生」の広域展開とグローバル連携を強め、山の姿創造第2幕を切り拓く予算とした」とし、市民自治社会創造、自立創造、安全・安心の暮らし創造、環境首都創造の面から所信を述べた。

これを受けて3常任委員会委員長が議会としての所管部門の代表質問を行い、11人が個人質問の一

般質問を行った。

■新城市庁舎

総務消防委員長の村田康助氏は、基礎工事が進む新庁舎建設工事について質問。市長は「安全第一で進め、2018年4月末までに高品質な新庁舎を完成させることに尽きる」と答弁。淡々と工事を進めるのでなく、その過程で「市民 まち未来が見える新庁舎型庁舎」という新庁舎の基本理念のもと、「市民自治」「環境」「安全安心」「地域経済活性化」「経済的合理性」の5つの基本方針がどの

ように実現されていくかを、現場見学会などを通じて、市民の皆さんに実感して頂ける工夫をしていくとして、事業への決意をにじませた。

■庶民感情

厚生文教分野の質問に立った山崎祐一氏は、第2次地域福祉計画の中間見直し、市民病院の医師確保と公設民営に対する考え方、さらには新年度予算の執行途中で迎える任期満了・改選に際し、どう責任を果たし進退をどう考えるのかと聞いた。

市長は、進退については熟慮中としていた。

新庁舎の建設の槌音と共に

た。

山崎氏は、新年度予算は新規事業がない堅実型予算で、「若者議会」や「ニューアライアンス」などは高齢者が多い中で庶民感情とズレていないか、市民の支持を得ているのかと指摘した。

前回の市長選と住民投票を経て、見直しを行い建設の槌音が響いているが、逆風は吹いていない。それでも新年度の歴史では4期16年が定説化しているとしたが、市長は、市民は何を求めているのかを見極め判断していくとの答弁に留めた。

描かれているが、新城市としての取り組みはそれほどではないのではないか。指摘。産業振興部長は「直虎の養子の虎松(後の直政)が7歳の時に預けられた鳳来寺が、新城市に最も関係するスポットであるが、ドラマでどのような

■観光誘客の推進
昨年2月の新東名開通により、昨年は360万人と一昨年より17%の増加となった。このことを一過性にしないために、経済建設委員長の山口洋一氏は大河ドラマ「おんな城主 直虎」では直虎が成長して

に描かれるのかと期待している」とした。

新城市への注目が合い、今後の放送時期や取り上げられ方によって変化してくるといってもどかしさがにじんでいた。

■買物困難地域対策
白井倫啓氏は買物困難地域対策の移動販売について取り上げた。

市民福祉部長は「高齢、過疎化への対策として福祉の一端として行うものであり、実証実験をし、手立てをとっていく」としたが、白井氏は安易にJA愛知東の

移動販売車を前提にしていないかと指摘し、買物弱者の多様なニーズに 대응するためにも再検討を要請した。

■空き家対策
昨年5月、放置された空き家の撤去や活用を促す「空き家対策特別措置法」が施行された。新城市で空き家と思われる建物が1069件、空き家率は13.2%という現状から、「市空き家等対策計画」について議論したのは鈴木達雄氏。

建設部長は「対策計画は空き家の適正管理と利活用を軸として、空き家の発生抑制など総合的に取り組むとしている」とした。

ともに、まちづくりの中長期的視点で空き家を有効活用する方策に知恵を絞ってほしい。

■スポーツ振興
打桐厚史氏は「市スポーツ振興計画」について質問した。議論の中で、愛知県のスポーツ振興計画は「いつでもどこでも」「いつまでも」となっているのに対し、市の同計画が「だれとでも」となっている違いから、その意図を聞いた。教育部長は新城市の「共育」の考えが反映された市独自の計画とした。

スポーツ振興と「共育」について、突っ込んだ議論を期待したが、残念だった。